

京都の中小 何でも受注

試作品

どんな試作品の製造も引き受けます。電子部品メーカーから伝統工業まで京都に集積したモノづくりの匠を広く活用しようと、大企業や研究機関から製品の試作を受注し、中小企業に紹介する新会社「京都試作センター」（京都市）が19日発足した。地元企業が共同出資して設立した同センターは、全国的に市場が拡大している「試作産業」の拠点になることを狙う。（山本耕作）



電子部品を試作する従業員
—京都市の最上インクスで

「匠の技」活用

大手も出資し、仲介会社

新会社の資本金は2億円で、受注側の地元中小企業や、発注側のオムロンや京セラ、島津製作所など計27社が出資。デザインの凝った照明や高度な医療機器など、ありとあらゆる試作品の製造を受注。注文は受注企業が求める技術・納期に応じて、新会社が登録企業に割り振る。発注・受注企業から仲介の手数料を得て事業を成り立たせる。社長には前オムロン副社長の市原達朗氏が就

き、京都府は中小企業支援の財団法人「京都産業21」の職員を派遣する。試作品の製造を引き受ける登録企業には、機械金属や電子、繊維、アルミ加工など6業種の中小企業計41社が名を連ねた。登録すれば、営業活動や発注側との取引決済の代行も新会社に任せられる。発注側となる大企業や研究機関は、試作品ごとに適切な技術水準をもつ中小企業を探して個別契約する手間を省ける。19日、京都市であった創立総会では、発起人の立石義雄オムロン会長が「試作は新たな成長分野。オール京都で育てる」とあいさつ。新会社は今後、伝統工芸や自動車部品、ナノテク分野の企業にも参加を呼びかける方針だ。京都府の03年度調査では試作品市場は全国で約1兆5千億円、新会社は5年目の売上高

41社が登録 商機拡大に期待

目標を18億円とする。新会社の発足のきっかけは、機械や金属加工を扱う中小企業が5年前にスタートさせた共同受注のためのホームページ「京都試作ネット」。問い合わせのメールには2時間以内で返事をする姿勢が評判になり、ネットを通じて05年度に計約1億円の試作品を受注した。京都試作ネットのメンバーで今回、新会社にも参加する最上インクス（京都市）の鈴木三朗社長は「連携すれば、1社では二の足を踏んでいた仕事にも挑戦できる」と

話す。12社の同ネットの加盟企業は、そろって新会社に登録した。試作品の共同受注は全国に広がっている。大企業のリストラなどで、試作品の製造を外注する企業が増加。工場を持たず企画・開発に専念する「ファブレス」企業も増えてきているためだ。精密機器の製造会社が集まる長野県の諏訪地区では04年、三協精機製作所（現日本電産サンキョー）など10社が出資して「世界最速試作センター」が発足し、年商3億円の実績。東京都大田区「オオタコレクションネットワーク」が設立され、約90社が参加している。

